

# 安定供給確保支援事業(重要鉱物)

## 有識者取りまとめ

---

- 成果目標・指標の設定に当たっては、
  - ー 探鉱や FS 事業、鉱山開発事業等の段階の異なる事業や性質の異なる鉱種ごとに定量的な短期又は中期アウトカムを設定するなど、最終目標への進捗を可視化すべき。
  - ー 短期アウトカムと中期アウトカムが重複しているため、短期・中期で達成すべき成果目標を改めて検討すべき。
  - ー 長期アウトカムについて、鉱種ごとの資源確保量というインパクトではなく、本事業で目指すべき目標について指標を設定すべき。
  - ー 事業の中止や縮小のリスクを踏まえて、アウトカム目標の設定や交付決定期間を検討すべき。
- より効果的・効率的に重要鉱物の特定国への依存度を下げ、産業界全体のサプライチェーン構築を加速させるため、下流における様々な事業との連携をさらに強化していくべき。
- 毎年度の執行乖離の現状や事業開始当初からの状況変化を踏まえ、事業費見込みを精査するとともに、基金設置法人の管理費見込みが適正なものとなるよう定期的にモニタリングを行い、適切に保有割合を算出した上で具体的かつ詳細に基金シートにおいて示すべき。

- 安定供給確保支援事業の重要鉱物と可燃性天然ガスのように、同様の政策目的を持ち、同一の基金設置法人に造成しているのであれば、別々に基金造成・予算措置をするのではなく、一つの基金事業にすることで、保有すべき資金の規模や管理費・事務の効率化を図ることができないか、組織横断的な観点から検討すべき。
- 案件採択に当たって、事業者の申請書に経済性評価等を審査できるような記入欄を設けるなど、事業者のキャッシュフローや経済性の評価といった客観的な指標に照らして厳格に審査できる体制を整備すべき。
- なお、本事業に限らず、全ての府省庁においては、EBPMの定着・深化のため、上記の視点に基づき、しっかりと対応すべきである。